

科目名	病院実習			ナンバリング	560410	授業形態	実習
対象学年	5 年	開講時期	前期・後期	科目分類	必修	単位数	10 単位
代表教員	福地祐司	担当教員	吉川真一、住谷賢治、永田隆之、石川暁志、渡邊義久、村田 亮、飯塚康人 □				

授業の概要	病院薬剤師の業務と責任を理解し、チーム医療に参画できるようになるために、調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。本実習は指定された病院において、11週にわたり継続して行う。						
到達目標	1 病院における調剤を通して調剤、医薬品の適正使用、リスクマネジメントに関連する基本的知識・技能・態度を修得する。 2 医薬品の管理、供給、保存に必要な基本的知識・技能・態度を修得する。 3 医薬品情報管理(DI)に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 4 薬剤師病棟業務の 基本的知識・技能・態度を修得する。 5 院内製剤の調製ならびにそれらの試験に必要とされる基本的知識・技能・態度を修得する。 6 医療の担い手としてふさわしい知識・態度を修得する。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	遅刻や無断欠席をしない。実習中は時間を厳守する。実習の予習、復習を行う。 実習で学んだ知識・技能・態度について必ず復習すること。また、練習できることについては、確実に身につけることができるよう繰り返し練習すること。 日誌は実習日ごとに「実習場所とスケジュール」「具体的内容」「体験した疾患、活動」「実習で深めることが出来た能力、その時点で不足していると感じた能力」「感想・反省・考察」などについて記載すること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。					
	○	2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
	○	3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
	○	5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 各々のSBOにおける指導薬剤師の評価が、3(学生としては及第点)または4(学生としては概ね良くできる)である。 2. 日誌が実習日ごとに「実習場所とスケジュール」「具体的内容」「体験した疾患、活動」「実習で深めることが出来た能力、その時点で不足していると感じた能力」「感想・反省・考察」などについて記載されている。	1. 各々のSBOにおける指導薬剤師の評価が5(学生としては良くできる)である。 2. 日誌が実習日ごとに「実習場所とスケジュール」「具体的内容」「体験した疾患、活動」「実習で深めることが出来た能力、その時点で不足していると感じた能力」「感想・反省・考察」などについて論理的に、正しい内容で、誤字脱字なく記載されている。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○	○				35%
授業態度・授業への参加				○	○		60%
実務実習報告会における発表			○	○		○	5%

課題、評価のフィードバック	1 指導薬剤師により、項目ごとのフィードバックを行う。 2 教員よりWebシステムあるいは訪問指導によりフィードバックを行う。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	処方箋に基づく調剤①	患者に最適の医療を提供するために、病院で必要な「調剤」、「医薬品の適正使用」ならびに「リスクマネジメント」に関連する基本的知識を修得するための実習を行う。	SBO:F-(2)-②-7～11, ⑥-8～14
	第2回	処方箋に基づく調剤②	患者に最適の医療を提供するために、病院で必要な「調剤」、「医薬品の適正使用」ならびに「リスクマネジメント」に関連する基本的技能を修得するための実習を行う。	SBO:F-(2)-③-9～19
	第3回	処方箋に基づく調剤 ③	患者に最適の医療を提供するために、病院で必要な「調剤」、「医薬品の適正使用」ならびに「リスクマネジメント」に関連する基本的態度を修得するための実習を行う。	SBO:F-(2)-④-11～15
	第4回	処方箋に基づく調剤 ④	患者に最適の医療を提供するために、病院で必要な「調剤」、「医薬品の適正使用」ならびに「リスクマネジメント」に関連する基本的知識・技能・態度を修得するための実習を行う。	SBO:F-(2)-⑥-8～14
	第5回	医薬品の供給と管理①	医薬品を正確かつ円滑に供給し、その品質を確保するために、医薬品の管理、供給、保存に必要な基本的知識を修得するための実習を行う。	SBO:F-(2)-⑤-9～13
	第6回	医薬品の供給と管理 ②	医薬品を正確かつ円滑に供給し、その品質を確保するために、医薬品の管理、供給、保存に必要な基本的技能・態度を修得するための実習を行う。	SBO:F-(2)-⑤-9～13
	第7回	医薬品情報の収集と活用	薬品の適正使用に必要な情報を提供できるようになるために、薬剤部門における医薬品情報管理(DI)に必要な基本的知識、技能、態度を修得するための実習を行う。	SBO:F-(3)-②-2～6
	第8回	患者情報の把握	薬品の適正使用に必要な情報を提供できるようになるために、患者情報の把握に必要な基本的知識、技能、態度を修得するための実習を行う。	SBO:F-(3)-①-5～7
	第9回	薬物療法の実践①	入院患者に有効性と安全性の高い薬物治療を提供するために必要な、薬剤師病棟業務の基本的知識を修得するための実習を行う。	SBO:F-(3)-③-7～14
	第10回	薬物療法の実践 ②	入院患者に有効性と安全性の高い薬物治療を提供するために必要な、薬剤師病棟業務の基本的技能を修得するための実習を行う。	SBO:F-(3)-④-4～13
	第11回	薬物療法の実践③	入院患者に有効性と安全性の高い薬物治療を提供するために必要な、薬剤師病棟業務の基本的態度を修得するための実習を行う。	SBO:F-(3)-④-4～13
	第12回	院内製剤 ①	患者個々の状況に応じた適切な剤形の医薬品を提供するため、院内製剤の必要性を認識し、院内製剤の調製ならびにそれらの試験に必要とされる基本的知識を修得するための実習を行う。	ア-F-②-1,3
	第13回	院内製剤 ②	患者個々の状況に応じた適切な剤形の医薬品を提供するため、院内製剤の必要性を認識し、院内製剤の調製ならびにそれらの試験に必要とされる基本的技能を修得するための実習を行う。	ア-F-②-1,3
	第14回	チーム医療への参画 ①	多職種が連携・協力する患者中心の医療チームで、倫理観を持ち、かつ責任感のある薬剤師となるために、医療の担い手としてふさわしい知識を修得するための実習を行う。	SBO:F-(4)-①-4～9
	第15回	チーム医療への参画 ②	多職種が連携・協力する患者中心の医療チームで、倫理観を持ち、かつ責任感のある薬剤師となるために、医療の担い手としてふさわしい態度を修得するための実習を行う。	SBO:F-(4)-①-4～9
	試験			
授業の進め方		指導薬剤師の指示に従い実施する。		
授業外学習の指示		【予習】予定されている実習項目に関して、講義やプレ実務実習で学んだことを復習する(60分) 【復習】その日の実習を振り返り、その内容・疑問・考察等を日誌にまとめる(30分) (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	治療薬マニュアル2019、医学書院、5,000円(税別)、ISBN 978-4-260-03666-5
参考書	
参考URLなど	
その他	薬剤師として求められる基本的な資質(⑥ 薬物療法における実践的能力):薬物療法を総合的に評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。 アドバンスト:10% 準備教育:00% 大学独自:00%